

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 長谷川 美智代
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<https://city-osaka-ikuseikai.or.jp>
定価 10円



大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

第63回近畿知的障がい者福祉大会（併催 第22回大阪市手をつなぐ育成会大会）を開催しました
東成区ハーモニー 小泉いと子



【式典／クレオ大阪中央】

12月1日(日)クレオ大阪中央にて、第63回近畿知的障がい者福祉大会（併催 第22回大阪市手をつなぐ育成会大会）を開催しました。式典では大阪市福祉局局長 坂田洋一様をはじめ7名の来賓の皆様にご臨席を賜り、お祝のお言葉を頂きました。

はじめに、「中央情勢報告」について一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事 又村あおい氏よりご講演をいただきました。障害福祉サービスに関する法制度の動きとして、令和6年4月に児童福祉法、障害者総合支援法の改正が施行され、併せて障害福祉サービスの報酬改定も実施されました。

今回の法改正、報酬改定は障害者権利条約の対日審査総括所見も意識したものになっており、特に入所施設やグループホームのあり方については注視が必要です。全ての入所者を対象に、将来の暮らしぶりを意思確認することが法定化され、全ての入所者に対して「あなたはどこで暮らしたいか」という意向確認が義務化されます。加えてグループホームにおいては、一人暮らし等を希望する人への「卒業支援」が法定化されました（全入居者への意向確認必須）。

◎障害者差別解消法の改正について

令和6年4月に障害者差別解消法の改正が施行されました。これにより、民間事業者における合理的配慮の提供が義務化されるほか、差別解消に向けた相談対応人材の育成・配置が進められます（ただし、まだ認知度は低い状況です）。当事者（私たち障がいのある子の親も含め）も、合理的配慮の提供義務化を意識し、不当な扱いを受けたと感じた時には、きちんと相談することが必要だと思いました。

成年後見制度の見直し議論では、平成28年に施行された「成年後見制度利用促進法」に基づき、専門家会議が設置されており、全育連からは久保顧問が参加されています。必要な時だけ使うスポット利用の考え方を導入して費用面でも軽減するなど、利用が進まない背景について説明し、制度改善を提言していただいております。親も子も高齢化している中、安心して身近に託せる成年後見の制度となるよう、今後も引き続き確認していきたいと思っております。

次に「避難行動要支援者にまつわる諸制度と動向について」というテーマで、佛教大学専門職キャリアサポートセンター 専任講師 後藤至功（ごとうゆきのり）様よりご講演頂きました。後藤様は1995年の阪神淡路大震災で避難所・仮設住宅・復興住宅を利用され、同年兵庫県社会福祉協議会へ入局されており、その経験を元にお話いただきました。

令和3年度介護報酬改定の中で「感染症・災害」に関するBCP（事業継続計画）策定が義務化され、それぞれ避難の際、事業所はどのような動きをする必要があるか、避難にどのコース通るかなど地図で確認し、どのような声掛けをして、皆で情報共有しつつ安全な場所に行けるかなど、あらかじめ定めておく必要があります。避難計画の策定については、地域の人や保護者も共に行うことが大切だとおっしゃっていました。

実際に災害が起こった際の事業所の状況についても、事例を挙げてご説明をいただきました。障がいのある方が、災害があったことを理解できず、避難先などで「何故ここに居なければならないのか？」など、不安や先への見通しが立たないことへのストレスから精神的に不安定になったり、断水や電気・ガスの不通などにより食事が摂れない、衛生面で清潔に保つことが出来ないなど、様々な問題が発生します。

福祉避難所ガイドラインの改定については、要配慮者が予め定めた施設へ「直接避難」も可能になりました。災害現場の最前線と、実際の障がい者支援にあたる私たちでは使い勝手に違いがありますので、生活主体者として自分たちの生活の場をイメージして作ってくださいとおっしゃっていました。

続いて、「福祉×防災×コミュニティみんなで助かるために個別避難計画からみる福祉防災の全体像」のテーマで、一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会 理事 湯井恵美子(ぬくいえみこ)様よりご講演頂きました。登場されるやいなや、会場の方々と一緒に認知体操が始まり、眠気が覚めました。自己紹介を聞かせて頂き、「なんとバイタリティー溢れる障がいのある子どもさんのご家族だろう」と圧倒されました。

「個別避難計画」

「避難」とは、「避難行動(安全な場所への移動行動)」だけでなく、「避難生活(安全な場所での暮らしの再建)」の両方を指す。計画を立てるときには、親は客観的に子供の事を見られないので、関わりのある人たちと一緒に、子どもを含めた自分達の避難を考える。

「身の回りで注意することは」

- ・(実際に何が起こるのか) 障がいのある人に事前に緊急地震速報を毎日聞かせる。(親が音を聞かせることは簡単にできる)
 - ・寝室には肩より高い家具を置かない。
 - ・避難所でも運動をして、炭水化物ばかりでなくたんぱく質もとる。
 - ・地域のつながりを作り、仲間の見守りは自分たちでする。
 - ・心の健康も保ち体力づくりをする。
- など、たくさんの教えを頂きましたが、『どんな重い障がいでも力がある』と私たちにエールをくださいました。

最後のシンポジウムは「自然災害と自助・互助・共助・公助」というテーマで、司会・進行は又村あおい氏。シンポジストとして後藤至功氏、湯井恵美子氏、当会副理事長の上宮俊一氏が登壇されました。

上宮氏より、実際に持ってこられたマイ防災袋を見せていただき、会場の皆さんで確認しました。緊急用ホイッスルなど見落としがちなものもあり72時間は救助や救援物資が無い想定でマイ防災袋を用意することが重要だとおっしゃっていました。

また、地元での避難に備えて、民生委員さんが相談に来られたが、障がい者の避難の話については前提となる知識がないため、噛み合わなかったという経験についてもお話いただきました。避難計画を作るだけでなく、それをきっかけとして自分だけではなく仲間と一緒にできることについて考えておく。事業所のメンバーはそれぞれ居住地域が違うので、住所ごとのグループを作ることが出来ないかを期待しているとおっしゃっていました。

続いて後藤氏より、現在の仕組みの中で市町村として考えておいてほしいことは、災害時に障がい当事者の「安全ゾーン」がきちんと確保されていなかったことが課題だと思う。「こうして欲しい」という声を実現できず、要望に見合うような仕組みが出来なかったことを非常に残念に思う。

例えば、カラオケボックスを福祉避難所にしてもらえるならば、個室・トイレ・食事等の環境も整えられるのではないかと。何かあった時に必ず警察・消防につながるような通報システムを作ってほしい。また、電気の供給ステーションを企業と一緒に作っていただきたい。そして、福祉避難所は病院ではなく生活の場であり、障がいのある方も生活主体者として、自分たちの場所を作ってくださいとおっしゃっていました。

続いて湯井氏より、まずは制度を知る。自分達は何に守られているかを十分に親が知っておくこと。

- ・個別避難計画を作成しておく。
- ・行政に活用できる避難行動要支援者の名簿を作ってください。
- ・住民地図を色分けにして、「支えあいマップ」を作り、災害時に地域の人の力を借りて、人手が足りないところを担っていただく。
- ・行政ネットワーク・地域ネットワーク・互助ネットワークを作り、資金の備蓄をしておくことも大切だとおっしゃっていました。

今回の大会に参加して、今までどこか他人ごとだった災害についてしっかり向き合うことが出来ました。参加されていた皆さんも、家に帰ってから部屋中をチェックされたことと思います。実践につながる有意義な大会となりました。

関係者の皆様に感謝申し上げます。

**第63回近畿知的障がい者福祉大会 本人大会
「作ろう」の開催について**

ワークス いけじま 管理者 十川 知己

本人大会の「作ろう」では「ステンシル」を実施しました。ステンシルとは紙や布などに型紙越しにインクを転写する模様付けの方法です。インクを染み込ませたスポンジで切り絵を上からたたくと切り絵の空いた部分にインクが転写されます。



今回は前半に布製のバック、後半に布製のポーチにステンシルを行いました。前半、後半併せて約40名が参加されました。中には前半と後半両方参加され、バックとポーチ両方を作られた方もいらっしゃいました。

最初にハガキほどの大きさの画用紙で何枚か練習をして、やり方を覚えてから…いざ本番！となりましたが、思っていた以上に皆さん上手に取り組みられました。



色々な型紙の中から自分の好きな型紙を選んで、インクを着けたスポンジを布にトントンとたたきつける作業を根気よく続けて…出来上がった皆さんの作品は、個性豊かで素敵な仕上がりだったと思います。

皆さんが自慢の作品を持って笑顔で帰られる様子を見て満足していただけて良かったと思いました。



【本人大会／「作ろう」会場風景】

**第63回近畿知的障がい者福祉大会 本人大会
「動こう」の開催について**

港第二育成園 管理者 織田 洋一

本人大会「動こう」では、クレオ大阪中央4階のセミナーホールで前半と後半の2回に分けて「笑いヨガ」を開催しました。前半は18名、後半は22名の皆さ

んが参加されました。笑いヨガで大切なのは「かけ声」。両手をたたきながら「ホッホッ、ハハハ！」と発声します。これが笑いヨガの基本動作の1つです。ヨガの呼吸法である腹式呼吸が自然にできるようになるとのことです。次は「やったー、やったー、イエーイ！」というかけ声で、手をたたいてから両腕を上へ大きくあげる動作。ポジティブな言葉を使うことで、気分が明るくなることが期待できるそうです。講師の『あやちゃん』こと岩倉あや子氏と、『たかぼん』こと横井孝明氏のレクチャーのもと、参加者全員で笑いヨガを実践しました。

最初のウォーミングアップは、個々に仮想の物を手取る、食べる等のイメージをしながら動作を行います。そして、そのイメージを徐々に膨らませて…日本を飛び出してハワイまで飛行機に乗って行き、美味しいものを沢山食べています。ハワイからの帰りは運賃が少し足りずに手漕ぎのボートで帰ることになったのですが…笑。

活動中、皆さん楽しいイメージが沢山できたようで会場内は笑顔で溢れていました。楽しみながら腹式呼吸も取り入れて、しっかりと運動もできました♪



【本人大会／「動こう」会場風景】

**第63回近畿知的障がい者福祉大会 本人大会
「見よう」の開催について**

居宅介護事業所 管理者 服部 剛志

本人大会の「見よう」では、2つの会場に分かれて、ザ・ドリフターズの「8時だヨ！全員集合」と「ドラえもん」のDVDをそれぞれ前半と後半に分けて上映しました。開会式典の後、上映会場に移動された際にどちらを観るか個々に選んでいただきました。いずれもよくご存じの内容ということもあり、殆どの方が迷わず選ばれていました。「見よう」には29名が参加され、「8時だヨ！全員集合」は16名、「ドラえもん」は13名の方が鑑賞されました。1回あたり1時間15分ほどの上映時間となりましたが、途中退席する

方もおられず、落ち着いて鑑賞されていました。特に「8時だヨ！全員集合」では笑い声が部屋の外まで聞こえていました。上映後には「楽しかった」や「おもしろかった～！」との感想も聞かれました。



【本人大会／「見よう」会場風景】

第63回近畿知的障がい者福祉大会 本人大会 「学ぼう」の開催について

メープル 角川 舞華

本人大会「学ぼう」では、参加者35名がグループに分かれて「障害者虐待防止法」について勉強しました。

まず、虐待についての話を聞いたあと、2人ずつに分かれて自己紹介を行い「会社で嫌なことや、やめてほしいと思うことがあるか、相談する相手はいるのか」等の質問をし合い、その後みんなの前で発表しました。

次に、虐待についてのロールプレイ劇を見て、どのように思ったか、同じような経験があるのかについてグループで話し合いました。最後は、今日のまとめ・感想という内容で開催しました。

仕事でやめてほしいことがあった時ははっきりと断る人、自分の嫌だったことを相手に伝えている人や上司に相談している人、嫌なことはあったが誰にも相談できない人等、様々な方がいらっしゃいました。育成会行事に何度か参加されている方は顔見知りの方もいて楽しそうに話されているグループもありました。



【本人大会／「学ぼう」会場風景】

「この行事をいつも楽しみにしていて、会社であったことや嫌なことを共有出来て嬉しい」と話された方もいました。ロールプレイで劇を見ていると「これは虐待なのではないか」とか、「こんな経験したことある」と話されていた方もありました。勉強しながら思いを共有できる場として開催できて良かったと思いました。

「障害者週間」大阪市巡回キャンペーン出発式 にあたって

障害者基本法では、毎年12月3日から9日までの期間を「障害者週間」と定めています。

「障害者週間」の期間中には、障がいのある人が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加することを促進するため、国や地方公共団体は民間団体等と連携して障がい者の自立及び社会参加の支援のための様々な取り組みを実施することとされています。

12月3日(火)に大阪市役所5階にある応接室において巡回キャンペーンの出発式が行われました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年で5年連続屋内での出発式となりましたが、この巡回キャンペーンは、1981年(昭和56年)の国際障害者年を契機に、全国で初めて当事者による啓発活動として1983年(昭和58年)から始まり、今年で42回を迎えることができ、これまでの継続してきた歴史の重さを感じました。

【大阪市役所にて】



全国手をつなぐ事業所協議会全国研修大会に 参加してきました！

副理事長 上宮俊一
東成育成園 茶谷和美

【大会】

11月9日、事業所協議会全国研修大会がありました。まず、厚生労働省の障害福祉専門官から、障害者支援施設における地域移行の取り組み、障害者の地域支援、強度行動障がいを有する者の支援体制について



【全国事業所協議会全国研修大会 北海道大会にて】

説明があり、また、今回、特別に活動報告として、能登の社会福祉法人おとり会の鍛冶谷理事長から発災時の状況などについてお話がありました。障がいのある弟が照明器具を吊り下げの紐にしがみついていたこと、ご自身は腰が抜けたような状態で身動きが取れなかったこと、発災後は利用者ひとり一人の無事を歩いて確認し、ある者は遠方に避難したり、ある者は入院したりなどの情報を得、全員の安全が確認できた時の安堵感などを伝えていただきました。基調講演はのぞみの園の田中理事長から『行動障害者への支援力の向上』と『高齢知的障害者への支援』について講義があり、のぞみの園の歴史や具体的な支援の実情、特別支援課における地域移行の取り組みなどのお話がありました。私個人的には、「強度行動障害」のネーミングをした一人が改革派で名高かった浅野史郎元宮城県知事だというエピソードが新たな発見でした。「強度行動障害」とネーミングされたことで、制度の充実、支援の質の向上が図られ、行動抑制が難しい多くの方、またその対応に悩まされていた多くの周囲の方が救われるきっかけになったのではないのでしょうか。まだまだハード面、ソフト面ともに発展途上の分野ですが、人的・経済的投資に期待したいところです。（T. U.）

【第一分科会】

『行動障害者の暮らしと支援』がテーマの第一分科会に参加しました。

のぞみ園の田中理事長がコーディネーターを、道南ねっと高橋氏、びすけっと鋤形氏、全国手をつなぐ育成会連合会長小島副会長からお話を聞かせていただいています。行動障がいがある方について、障がいがある方の中でもマイノリティであること、親にごめんなさい、すいませんと言わせないよう支援していきたいと話されています。また、不適切な行動は本人の訴えや思い、困りごとの表出であり支援をする中でアセスメントが非常に重要であり、なぜ、何を思って行動しているのか、その理由に思いを巡らせることが大切で

ある、そして理解してくれる人が1人でも増えることが1番の環境の変化であるとのこと。

分科会の中で、標準的支援と構造化、チーム作りについて繰り返し話されています。強度行動障がいがある方の支援においては、特定の事業所、特定の支援者だけで支えるには限界があり、地域の中で複数の事業所、関係機関が連携して支援を行う体制を構築していく必要があります。今後、行動障害支援者全国ネットワーク（仮称）の構築を目指していると話されています。地域における支援者が互いに支え合い、連携して支援を行うため、また、率直な意見交換や情報共有等の取り組みを進めるためにも、事業所においては適切な支援の実施をマネジメントする中核的人材を中心にチームによる支援を進めていきます。さらに、各地域において広域的人材等が事業所への指導助言を行い、事業所の支援力の向上や集中的支援による困難事案への対応を行う体制を整備していくとのこと。

強度行動障がいの方を支援するためには、特性の理解やアセスメントに基づく支援が基本となります。重い障害があっても、住み慣れた地域で本人の希望に応じた社会生活が送れるようになり、本人や家族が安心して過ごせる環境づくりを目指すためには、事業所、市町村、都道府県、医療、教育それぞれの役割を理解して地域体制を構築していくことが必要であると再認識した大会でした。（K. C.）

【第二分科会】

『明日の事業所運営を考える』をテーマに全国手をつなぐ事業所協議会の松崎理事長のコーディネーターで進められました。最初に、なよろ陽だまりの会の岩崎施設長から報告がありました。就Bの利用者工賃が36,000円～50,400円という驚きもありましたが、特徴として、行政からの委託事業が多いこと、周辺に同種法人が少ないことなどもあり、地域に根付いた存在になっているところが印象的でした。次に余市はまなすの高崎施設長から報告がありました。法人理念に「障がい者が自立できるような賃金を利用者に払う」と謳っているだけあって、就Bで平均工賃が月額42,953円と納得できる数字となっています。作業内容としては、水産加工会社からの請け負っている段ボールの箱折りや廃油石鹼の製造など、やはり地域との連携を重視し、地元産業にとっても必要不可欠な存在となっています。最後の報告者として、八王子いちょうの会の吉村所長から現状抱えている課題などの紹介がありました。「募集をかけても応募が少ない。特に若い人の募集がない」「送迎ドライバーも確保が困

難」など人材不足の点、「支援が増えても区分は上がらない」「事業所に通えなくなる方が急に増える可能性がある一方で、新規利用者の獲得は困難」など利用者の高齢化に伴う問題点、「報告書類の増加」など事務に携わる時間が直接支援を行う時間を駆逐している点などの紹介がありました。これらの点については、大阪市育成会とも共通する課題であり、解決に向けた検討、努力を継続していかなければなりません。人材確保の点については、松崎専門官から「就職フェスタに行った時、学生が行列をつくっていたのは、給与面でアドバンテージのある事業所ではなく、法人の歴史、理念を語っているところであった。学生は決してお金だけで進路を決めているわけではない」との発言がありました。私たちもそれを信じて、リクルート活動を行いたいと思います。

一日だけの研修でしたが、共通の悩みを抱える同志が情報交換することで、たくさんのエネルギーを吸収できた機会となりました。(T. U.)

ンを使って軽やかに踊るダンスシーンは華やかでとても楽しかったです。舞台がオーストリア(ウィーン)とドイツ(ミュンヘン)ということでお洋服などもチェック柄やパステルカラーを使用していて、目で見ても楽しめます。ロッセとルイーゼの二人の性格は、おしとやかとお転婆で全く逆なのですが、雰囲気がとてもよく似ていて、ハモリなんかは見事にそろい可愛いすぎる双子。家族皆で暮らすためにパパとママに必死に想いを伝えようと涙するロッセとルイーゼの姿には、真摯な思いが伝わってきて思わずこちらも涙が溢れてきました。ホッコリと優しい気持ちにさせてくれる心暖まる物語でした。」(東成育成園 岡村さんのお姉様より)



大阪市育成会会員だより

《1月支部連絡会について》

- ・日 時：1月23日(木) 13:00～
- ・場 所：社会福祉センター 第1会議室



活動報告(11月16日から12月15日まで)

活動日	内 容
11/17	「仲間づくりの教室」(阿倍野市民学習センター)
12/2	近畿ブロック役員会 (WEB会議)
12/3	年金学習会 (東淀川支援学校)
	大阪市街頭キャラバン出発式・要望書提出 (大阪市役所)
12/6	学校運営協議会 (府立難波支援学校)
12/11	大阪知的障害児者生活サポート協会作品展示会表彰式 (ビッグ・アイ)
12/15	長居障がい者スポーツセンター50周年記念式典 (長居障がい者スポーツセンター)

2024日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」『第48回クリスマスチャリティー公演』にご招待いただきました

12月2日(月)に泉ヶ丘のビッグ・アイで開催された2024日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」主催の「第48回クリスマスチャリティー公演」劇団四季のミュージカルに当会の会員30名がご招待いただきました。

当日の会場は大きなクリスマスツリーやサンタクロースのお出迎いで、一足早いクリスマスの雰囲気に包まれていました。

このチャリティー公演は、昭和51年から始まり、日産労連の組合員さんお一人お一人が毎月100円ずつ出し合われた福祉基金を基にNPOセンター「ゆうらいふ21」を設立され、2004年から福祉活動の一環として、子どもたちに夢や希望・心の豊かさをプレゼントしようと劇団四季の皆さんと共に全国で招待公演を開催されています。

今年の演目は劇団四季の人気のファミリーミュージカル『ふたりのロッセ』。離ればなれで暮らす双子の女の子ロッセとルイーゼがひょんなことから出会い、力を合わせ再び家族の絆を取り戻そうと奮闘する心温まる物語です。

観劇された会員の方から感想を頂きましたので、ご紹介いたします。

「バレエ要素が盛り沢山で特に女の子たちがタンバリ